

NPO 法人マリンネットワーク

平成 30 年度 総会資料

日時 平成 30 年 5 月 13 日（日） 14:00～14:45

会場 TKP ガーデンシティ札幌駅前 5D 会議室

NPO法人 マリンネットワーク

平成30年度総会 次第

日時 平成30年5月13日(日) 14:00~14:45

場所 TKPガーデンシティ札幌駅前 5D会議室

1 開 会

2 総会定足数報告

3 理事長挨拶

4 議長選出

5 総会

1) 総会開会宣言

2) 議事録署名者選任

3) 議案審議

第1号議案 平成29年度事業報告について

第2号議案 平成29年度収支決算報告並びに監査報告について

第3号議案 平成30年度事業計画(案)について

第4号議案 平成30年度収支予算(案)について

第5号議案 役員の選任(案)について

第6号議案 定款の一部変更(案)について

4) 総会閉会宣言

6 その他

7 閉 会

第1号議案

平成29年度 事業報告

■NPO 法人マリネットワーく 平成29年度 総会・講演会・交流会

1. NPO 法人マリネットワーく総会

日時：平成29年5月20日 14:00～14:30

開催場所：TKPガーデンシティ札幌駅前

正会員数総数116名（個人90，法人26）のうち，出席者70名（うち委任状出席者50名）で，正会員数の1/2以上の出席をいただいたので，総会が成立しました。

片石理事長が議長に選出され，4つの議案について審議をしたところ，原案通り異議なく可決されました。



2. 講演会

日時：平成29年5月20日 15:00～17:15

開催場所：TKPガーデンシティ札幌 アパホテル札幌

■講演 15:00～15:50

○小西由稀氏 「浜の魅力と思いの伝え方」

50分のお話にて，出席者全員が引き込まれていました。北海道は産地と消費地が近いのに，生産者と消費者の距離はとても遠いと感じていました。小西さんのお話の結論は，これから生産者は，消費者のことを知り，様々な人脈を形成し，情報発信は“シズル”（広告用語：五感に訴えるおいしそうな表現）を意識することが提案されました。この“シズル感”については，トークセッションでも重要なキーワードとなりました。

講演概要

・“魚料理のいま”（小西さんがこれまで取材してこられた数多くの料理人のしごとから）



料理人が考えていることは、さかなの扱い方、手当て、熟成などである。ミシュランガイド北海道版にも掲載されている店とシェフについて具体例を挙げてこだわりについてお話をいただいた。

- －「鮭一幸」工藤シェフ ネットになる魚については食べたエサまで気にするこだわり
- －「天ぷらあら木」子持ちの春シャコのでんぷらは、身と卵が口の中でなじむよう、卵を半熟に火入れしたため、浜に活シャコを買いに行き、生きたまま持ち帰っている。
- －「鮭ノ蔵」キンキは、身に火を入れずに、脂にほんのり熱を加えた状態で握るため、ウオーターベッド（お湯を張った器にラップをかいた）の上に乗せて温める。
- －「リストランテ薫」魚の熟成において、一か所に圧力がかかるのを防ぐため魚をビニールに入れて水に浮かせる

・“料理人からみた北海道の魚の特徴”

- －知名度あり、脂あり
- －うまみが少ない、水分多い、扱い悪いなど

・“浜の魅力と思いの伝えかた”

7つのヒント

1. 自分の常識は他人の非常識、自分の常識を疑ってみる
2. 魅力、強み、根拠
3. 魚のプロフィールが書けるか、魅力の深堀
4. ライバルはいるか、市場を意識しているか
5. エンドユーザーと同じ方向を見る
6. 価値の把握
7. 伝え方

提案1 おいしさを伝えることにおいて“シズル”の表現方法を意識しましょう

（こだわりやおいしいだけでは伝わらない、食べやすいはおいしさを伝える言葉ではない）

提案2 原石であるさかなを磨き上げましょう

提案3 もっと街へ出ましょう

（実際に見る、知らない味を食べる、料理人と話す、情報・技術を共有、売り込む努力、自分以外の引き出し（人脈）を作りましょう）

【講師略歴】

北海道室蘭市生まれ、札幌市在住。寿司屋の娘に生まれ、幼い頃から食に興味を持ち育つ。札幌の出版社を経て、独立。

畑や海、食品加工、飲食店など、北海道の食の現場取材し、そこに携わる人と食の魅力をさまざまな媒体で発信中。著書に「おいしい札幌出張」シリーズ、「食のつくりびと」（エイチエス）、共著に「まんぷく札幌」（KADOKAWA）。読売新聞、北海道新聞、財界さっぽろに連載執筆。HBC「グッチーの今日ドキッ！」にコメンテーター出演。

■トークセッション 16:00~17:00

「生産地の取組みと情報発信について」

スピーカー：小西由稀氏、高谷大喜氏（NPO 法人マリンネットワーク副理事長、
南かやべ漁協大船青年部「真昆布オーナー制」顧問）

コーディネーター：遠藤 仁彦氏（NPO 法人マリンネットワーク理事）



真昆布オーナー制について教えてください（コーディネーター）

平成15年から始まった南かやべ漁協大船青年部「真昆布オーナー制」は、函館市と合併前の南茅部町を宣伝する目的でスタートした。オーナー制を始めたことで、昆布の消費の仕方を知ることができた（高谷氏）

昆布の販売において“シズル感”をだすにはどうすればいいか（コーディネーター）

使ってもらうところから考える。フランス料理などで使われている（小西氏）

消費者や料理人の考えを知る機会はあるのか（コーディネーター）

日頃、料理人の考えを知ることはない（高谷氏）

農業は自分の生産物を自主流通している生産者も多いので、消費者との交流があるが、漁業はそうもいかない（小西氏）

浜からの参加者に“シズル”の意識について聞いてみましょう（コーディネーター）

NHKの番組に出たときに、美味しさを伝える場面をシズルカットと言っていた。愛情を注いで伝えることができるかどうか。苫小牧のホッキガイは肉厚でうまみが強い。そこがウリ。（苫小牧漁協）

東京の小学校でサケを使った食育を何年も続けている。大人に伝えるにはまず子供に伝えることからと思っている（北るもい漁協）

歯舞漁協は、活魚水槽を入れて活タコの出荷に取り組むところであり、シズルの意識については今後、考えていかなければいけない重要なことだと思う（歯舞漁協）

産地の思い、苦労を大切にすることだと思う。とれるもの、量も少なくなっている今だからこそ、大切なことだと思う。魚には取った漁師の名前もついていないのが現状（苫前町）



■NPO 法人マリンネットワークの活動報告 17:00~17:15

片石理事長が、平成 28 年度の活動報告をしました。



総合司会 折谷久美子氏 (NPO 法人マリンネットワーク理事,
NPO 法人スプリングボード・ユニティ 21 理事長)

3. 交流会 : 17:30~19:00

会員、一般の方々あわせ、約 25 名の出席を頂きました。

■ 漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(2) 第 14 回 マリンナレッジサークル（漁村勉強会）札幌

平成 28 年 3 月に北海道総合開発計画、平成 29 年 4 月には、水産に関する施策の総合的かつ計画的な推進のため新たな水産基本計画が閣議決定されました。

北海道では、北海道水産業・漁港漁村の将来像を示した「北海道マリンビジョン 21」が平成 16 年 6 月に北海道開発局により策定され、平成 25 年 6 月に改訂されました。また道内各地域では、関係者が一体となり協議会を組織したうえで「地域マリンビジョン」を策定し、地域活性化の取組をすすめています。

第 14 回マリンナレッジサークル(漁村勉強会)では、北海道開発局農業水産部水産課の田中課長から水産業と漁村振興のために実施している施策等についてご紹介いただくことになりました。また水産庁が推進する渚泊事業について、今年度採択を受けた歯舞漁業協同組合の中村参事から取組みについてお話いただきました。

【開催日時】平成 29 年 11 月 28 日(火) 18:00~20:00

【開催場所】一般社団法人寒地港湾技術研究センター 会議室

札幌市北区北 11 条西 2 丁目 2-17 セントラル札幌北ビル 5 階

【プログラム】

18:00~19:00 講師 北海道開発局農業水産部水産課 課長 田中郁也 様
北海道開発局農業水産部水産課が推進する事業の紹介（推進する施策全体、漁港水面の有効利用、マリンビジョンなど）

19:00~19:30 講師 歯舞漁業協同組合 参事 中村直樹 様
歯舞漁業協同組合で取り組む渚泊について

19:30~ 意見交換日 時：2017 年 1 月 18 日(水) 18:00~20:00

【出席者】 22 名



(2) 長野章氏叙勲記念講演会・祝賀会 後援

下記のとおり開催された「長野章氏叙勲記念講演会・祝賀会」（主催：公益社団法人 日本技術士会北海道本部 北方海域技術研究委員会、後援：NPO 法人マリンネットワーク）を後援させていただきました。

開催日：平成 29 年 10 月 23 日(月) 15 時 40 分～16 時 55 分

開催場所：ホテルオークラ札幌 2 F 「フォンテーヌ」

北海道札幌市中央区南 1 条西 5 丁目 TEL:011-221-2333 (代表)

■漁村地域の担い手支援に係る事業

(1) 北海道渡島地域漁業士フォーラム 講演

下記のとおり開催された「第8回渡島管内漁業士会フォーラム」において、片石理事長が講演をさせていただきました。

「第8回渡島管内漁業士会フォーラム」

水産業をめぐる情勢や広く教養を得るための題材を選定し、渡島管内の漁業士間の情報交換をすることにより、相互の連携を強化し、知識と見識を深め、さらなる漁業士活動の発展を目指すことを目的としている。

今年度は、魚食の推進、魚食文化の維持・醸成等や浜で働く女性が健康を維持しながら生き生きとした生活を送ることへの一助とすることを目的として「食育、アンチエイジング」をテーマに開催する。

日 時：平成30年3月9日（金） 14：30～17：00 （受付：14：00～）

場 所：「花びしホテル」(函館市湯川町1-16-18 TEL0138-57-0131)

主 催：渡島管内漁業士会（事務局：渡島総合振興局産業振興部水産課）

プログラム

- 講演1 「なぜ魚を食べることが大切なの？」
NPO法人マリネットワーク 理事長 片石 温美 氏

- 講演2 「ご機嫌さんで若返り」～瞬時に5才若返るコツ！教えちゃう～
有限会社オフィス・K 代表取締役 藤本 恭子 氏



■情報収集及び調査研究

(1) 釧路港におけるクルーズと水産物PRの可能性調査

1. 調査概要

- 平成23年に釧路港のクルーズ船ターミナルが供用して以降、外国クルーズ船の寄港回数が増加しており、同ターミナルに隣接するMOO・EGG周辺の賑わい創出にも寄与している。そこで、今回、クルーズとMOOとの関係について聞き取り調査を行い、クルーズを活用した水産物PRの可能性について考えていくこととした。

2. 釧路港のクルーズ実態

- 平成24年以降の毎年のクルーズ船寄港回数を見ると、日本船が2～4隻の漸増傾向があり、外国船は平成26年のプリンセスクルーズ社の北海道周遊クルーズ（18回）を除けば、2～12隻と増加傾向にある。
- クルーズ船寄港時に様々なおもてなし活動（例：EGG内での着物着付け体験、書道体験等）により、多くの市民がターミナルに集まり、賑わい空間が形成されている。
- 平成29年4月～7月にかけての日本船3隻、外国船3隻のサンプル調査によると、日本船では乗客の約7割がバスツアーに参加している一方、外国船では約2割しかバスツアーに参加していない実態にある。

3. MOOヒアリング

- 平成29年8月19日、MOO・EGGを管理運営している(株)釧路河畔開発公社の佐藤孝幸氏（営業部営業課・課長代理）から聞き取り調査を行った（聞き取り：遠藤仁彦（マリネットワーク理事））。佐藤氏はデパートでの勤務経験もあり、マーケティングの意識が高い。

- 聞き取り内容は次のとおり。

①クルーズ寄港によるMOOの影響

- * 寄港するクルーズ船（例えば、飛鳥II、にっぽん丸、ダイヤモンドプリンセス、フォーレンドラム等）によって、また乗客の属性（国籍、年齢等）によって一概には言えないが、クルーズ船が寄港した際には来館者は多くなり、これに伴い売り上げも上がっている。さらに、最近、お菓子店1店舗開店し、一時閉鎖していたパン屋さんが1店舗再開するなど、賃貸スペースも有効に活用されている。

②クルーズのおもてなしの場としてのMOO・EGG

- * クルーズ客船寄港時のおもてなしとして、国際交流サロンで外国人向けに「和服の着付け」、「鶴の折り紙（完成すると羽が動く）」、「アイヌ文様の切り絵」、「風呂敷で物を包む」、「日本舞踊」、「書道（カタカナで自分の名前を書く）」といった日本らしいことを体験して頂いている。また、インタビュー形式で世界地図を見せて「どこから来ましたか？」と問いかけて地図に印をつけるなどのふれあいの場を作ったりしている。
- * 開放感のあるEGGで行うイベントは好評である。ただし、時期、天候等によっては天井から結露がお客様にかかることがある。

③クルーズ船からMOOに乗客を呼び込む工夫

- * クルーズ船の近くにテントを張って案内したり、L字スタンドでお客さんを誘導したりしている。
- * 当所では中国人1名を含む3人のスタッフで観光案内を行っており、JNTO認定外国人観光案内所のカテゴリー1（常駐でなくても何らかの方法で英語対応可能。地域の案内を提供）に認定されている。今後より上位のカテゴリー2（少なくとも英語で対応可能なスタッフが常駐。広域の案内を提供）の認定を目指して取り組んでいるところである。
- * クルーズ船によっては「鶴の恩返しスタンプカード」を配布して、購入時にスタンプを押印し、1つのスタンプでも景品が当たるようにしている。
- * MOO内の6店舗で5,000円以上の買い物をされた方には、MOO内に設置してあるカウンターで免税の手続きの代行サービスをしている。
- * 土産品としては、アジアの方はお菓子、欧米の方は一般雑貨の購入が多い傾向がある。
- * 船舶のWi-Fiの使用料金が割高なためか、MOOに来館して無料Wi-Fiを利用する乗員・乗客の方が多数いる。このため、通信速度を速めたりエリアをリバーサイド全体に広げるなど、Wi-Fiサービスの充実に取り組みつつある。
- * （飯田誠釧路港湾事務所長の補足説明） 東港のクルーズターミナルに入れない大型クルーズ船は西港を利用しているが、その際に西港とMOOや和商市場をつなぐ有料シャトルバスを運行して、MOOにつなぐようにしている事例がある。

④農水産物PRの可能性

- * 他地域に比べて釧路はマーケティングが弱く、作ったあとにどう売るかというところの戦略が不足している。新聞に載れば売れると思っている面が強く、物を開発した時に名を付けてブランド化するだけでは不十分で、価値をどう高めるかという所、どう宣伝するかが大切。このため、もう少し真面目にブランド学のようなことの勉強が必要なのかもしれない。例えば、美味しい食べ物について、人に伝える時にどう伝えるのが効果的なのか、そういう一つ一つのことに時間をかけて取り組んで育てていく必要がある。そのためには、普段から関係者がよく話をしてきっかけを作る（一杯のみに行くのが手っ取り早い）ことが大切。
- * MOOに関しては一次生産サイドの農協や漁協と直接話すような機会は無い。

4. まとめ

- 外国クルーズ船は全国各地で寄港回数が伸びている傾向にあり、例えば沖縄ではほぼ毎日に近い寄港がなされている。釧路港は寄港回数がそれほど多いとは言えないが、おもてなしを充実させるなどクルーズ環境を整えて、着実に寄港実績を伸ばしている。また、クルーズとの相乗効果によって、MOO周辺の賑わいも着実に良くなっている。
- 一方、MOO・EGGの賑わい創出には効果があるものの、農水産物のPRの場として活用されているところまでは至っていないようである。賑わいの場を提供するMOOと一次生産サイドとの日常的な交流が無いため、そもそもPRの場にするという発想自体が生まれていない。
- ただし、この状況というのは逆転の発想でとらえると、チャンスがあるということである。MOOと一次生産サイドがタッグを組めば伸びしろがあるということである。日本船と外国船とではPRする時に訴求するターゲットが異なるものの、クルーズは水産物PRの潜在的な可能性を秘めている。

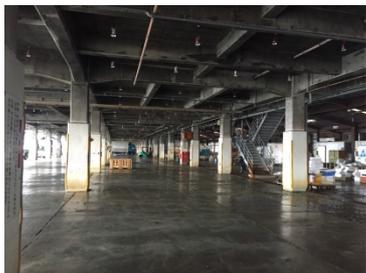
るのではないかと思います。

5. 謝辞

- ヒアリングに協力して頂いたMOO佐藤氏の他、北海道開発局釧路開発建設部の飯田釧路港湾事務所長及び藤田築港課長、クマシロシステム設計の寺島氏に協力してもらいました。ここに記して御礼申し上げます。(文責：遠藤仁彦 (マリンネットワーク理事))

(2) 沖縄県糸満市糸満漁港の視察

平成 29 年 12 月 16 日、沖縄県那覇市において活動内容についての理事打ち合わせ、17 日に那覇市の泊漁港 (第 2 種漁港)、「泊いゆまち」、「泊魚市場・直販センター」、糸満市の糸満漁港 (本最南端で最西端の第 3 種漁港) と「お魚センター」を視察しました。



泊漁港 荷捌場 (左) と岸壁 (右)



「泊いゆまち」は、みなとオアシスなは (左) を構成する施設の 1 つです。観光客向けのマグロの解体ショー (中) が行われていました。いろんな種類のマグロが安く買えます。



マグロの解体工程を見学 (左) したり、試食 (右) することもできます。



北海道産 (あるいは加工された) の魚介が多くみられます。根室ウニ (左)、苫小牧ホッキ貝 (中)、北海道産ゴッコ (右)。そのほか、マダラ、カキなどもあり、北海道ブランドは人気だと聞いてはいま

したが、手ごろな価格で販売されて流通コストなど低く抑える工夫がされているようです。

(3) マリンビジョン期成会総会報告書 契約金額：180,000円(税込)

第2号議案

平成29年度 NPO 法人に関わる収支決算書

会計期間：平成29年4月1日～平成30年3月31日

NPO 法人マリネットワーク

単位：円

平成29年度決算		単位：円			
科目	科目	H29予算 A)	H29決算 B)	B)-A)	備考
1. 収入の部		1,276,010	1,058,507	-217,503	
1. 会費収入		896,000	771,000	-125,000	
	個人会員	366,000	261,000	-105,000	正90人、賛32人 H29.3.31現在)
	法人会員	530,000	510,000	-20,000	正48口、賛5口 H29.3.31現在)
2. 事業収入		360,000	287,500	-72,500	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	0	9,000	9,000	ナレッジサークル参加費
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	0	0	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	30,000	0	-30,000	
	情報収集及び調査研究	180,000	180,000	0	
	その他	150,000	98,500	-51,500	総会 交流会会費
3. 預貯金利子		10	7	-3	
4. 寄付金等収		10,000	0	-10,000	
5. 補助金等収		10,000	0	-10,000	
6. 雑収入		0	0	0	
2. 支出の部		1,276,010	1,150,687	-125,323	
1. 事業費		850,000	618,751	-231,249	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	200,000	104,420	-95,580	マリナレ14回
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	200,000	60,150	-139,850	長野先生祝賀会
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	100,000	0	-100,000	
	④情報収集及び調査研究	150,000	43,470	-106,530	クルーズ調査
	⑤その他	200,000	410,711	210,711	総会、
2. 一般管理費		426,010	531,936	105,926	
	給料手当	0	0	0	
	消耗品	50,000	9,196	-40,804	
	通信費	15,000	13,533	-1,467	
	外注費	100,000	85,556	-14,444	MV報告書
	新聞図書費	60,000	62,964	2,964	
	会議費	10,000	0	-10,000	
	旅費交通費	150,000	358,095	208,095	
	租税公課	600	0	-600	
	支払手数料	3,000	2,592	-408	
	その他	37,410	0	-37,410	
当期収支差額		0	-92,180	-92,180	
前期繰越金		1,158,534	1,158,534	0	
当期資産合計		1,158,534	1,066,354	-92,180	

監査報告

監 査 報 告 書

平成 30 年 4 月 20 日

NPO 法人マリネットワーク
理事長 片石 温美 殿

NPO 法人マリネットワーク
監事 吉水 守
宮下 晃一



私たち監事は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの平成 29 年度における会計の監査を行いました。

諸帳簿、収支決算書、預金通帳および関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ経理事務が正確であることを証明します。

第3号議案

平成30年度事業計画（案）

■漁村地域とそれ以外との交流促進事業

(1) 平成30年度 NPO 法人マリンネットワーク総会・講演会

日時：平成30年5月13日（日）

総会：14:00～14:45 講演会：15:00～16:00

会場：TKP ガーデンシティ札幌駅前 参加費無料

5階5D会議室（北海道札幌市中央区北2条西2-19 TKP 札幌ビル）

【プログラム】

14:00～14:45 NPO 法人マリンネットワーク総会（会員の方が対象です）

15:00～16:00 講演会

・講演「水産物輸出の現状と浜の女性応援隊の活動について」

講師：山口知子氏（北海道水産林務部水産経営課水産食品振興
グループ 主幹）

NPO 法人マリンネットワークの活動報告

片石温美氏（NPO 法人マリンネットワーク理事長）

16:00～17:30 交流会 5階5E会議室

(2) マリンナレッジサークル（漁村勉強会） 札幌で1～2回開催

(3) Sea 級グルメ全国大会（紋別） 参加

■持続可能な漁村地域づくりに関する事業

- ・食育活動、都市漁村交流、消費者と生産者の交流を、漁協や漁協女性部など地域と協働で実施
- ・テーマ案

輸出促進（国や北海道の施策、国土交通省農水産物輸出促進基盤整備事業に関するものなど）
会員企業の技術紹介

■漁村地域の担い手支援に係る事業

- ・マリンナレッジサークル（漁村勉強会）開催

漁村で1～2回開催（漁業者、研究者、民間企業、行政等の多様な人たちが集まり、地域の課題や様々な対策等についての意見交換）

■情報収集及び調査研究

- ・調査研究業務など
- ・事業の公募など

第4号議案

平成30年度 NPO法人活動に係わる収支予算計画書(案)

会計期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

NPO法人マリンネットワーク

単位：円

科目	科目	前年度実績	H30予算	備考
1. 収入の部		1,058,507	1,140,010	
1. 会費収入		771,000	810,000	
	個人会員	261,000	300,000	正75人、賛25人 H30.4.1現在)
	法人会員	510,000	510,000	正26社・47口、賛4社・4口 H30.4.1現在)
2. 事業収入		287,500	310,000	
	漁村地域とそれ以外との交流促進事業	9,000	10,000	
	持続可能な漁村地域づくりに係る事業	0	10,000	
	漁村地域の担い手支援に係る事業	0	10,000	
	情報収集及び調査研究	180,000	180,000	
	その他	98,500	100,000	総会・交流会会費
3. 預貯金利息		7	10	
4. 寄付金等収		0	10,000	
5. 補助金等収		0	10,000	
6. 雑収入		0	0	
2. 支出の部		1,150,687	1,103,000	
1. 事業費		618,751	540,000	
	①漁村地域とそれ以外との交流促進事業	104,420	60,000	
	②持続可能な漁村地域づくりに係る事業	60,150	60,000	
	③漁村地域の担い手支援に係る事業	0	60,000	
	④情報収集及び調査研究	43,470	60,000	
	⑤その他	410,711	300,000	
2. 一般管理費		531,936	563,000	
	給料手当	0	0	
	消耗品	9,196	20,000	
	通信費	13,533	15,000	
	外注費	85,556	100,000	
	新聞図書費	62,964	65,000	
	会議費	0	10,000	
	旅費交通費	358,095	350,000	
	租税公課	0	0	
	支払手数料	2,592	3,000	
	その他	0	0	
当期収支差額		-92,180	37,010	
前期繰越金		1,158,534	1,066,354	
当期資産合計		1,066,354	1,103,364	

第5号議案

役員を選任(案)について

1. 提案理由

定款第14条及び23条に基づき、役員任期満了にあたり、理事2名、監事1名が退任し、後任の理事2名、監事1名の選任について、総会で決議する必要がある。

2. 提案内容

役員候補者名簿は以下のとおりです。

理事候補者(2名)

笹島隆彦氏： 一般社団法人寒地港湾技術研究センター 事務局長

近藤将基氏： 北海道水産林務部総務課水産企画グループ 主幹

監事候補者(1名)

高須賀茂之氏： 北海道漁港漁場協会 専務理事

(参考)

退任理事(2名)

水野雄三氏：前 一般社団法人寒地港湾技術研究センター 理事長
山口修司氏：北海道胆振総合振興局長

退任理事(1名)

宮下晃一氏：前 北海道信用漁業協同組合連合会 常任監事

役員体制(案)

理事長	再任	片石 温美
副理事長	再任	渡部 靖憲
副理事長	再任	高谷 大喜
理事	再任	遠藤 仁彦
理事	再任	折谷 久美子
理事	再任	藤井 賢彦
理事	退任	水野 雄三
	新任	笹島 隆彦
理事	退任	山口 修司
	新任	近藤 将基
監事	退任	宮下 晃一
	新任	高須賀 茂之
監事	再任	吉水 守

第6号議案

定款の一部変更(案)について

1. 変更理由

特定非営利活動促進法が改定され、平成30年10月1日以降、毎年、「貸借対照表」の公告を行うことが義務づけられました。また、この公告方法を定款に定めることが必要となりました。

このため、貸借対照表の公告方法を当法人のホームページに掲載することとし、これに伴い「定款 第9章 第55条」を下記のとおり変更したい。

2. 定款の一部変更(案)

(変更前)

第9章 公告の方法

(公告の方法)

第55条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示して行う。

(変更案)

第9章 公告の方法

(広告の方法)

第55条 この法人の公告は、この法人のホームページに掲載して行う。